

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	1-2-3		事業名	児童会館における中・高校生の利用促進
担当	子ども未来局子ども育成部子ども企画課 中村 TEL 211-2982			
全体計画				
事業内容	中・高校生の健全育成のための放課後の居場所づくりの必要性から、中・高校生を対象に、児童会館の開館時間を21時まで延長(中学生の利用は19時まで)し、利用の促進を図る。 ※平成18年度より実施しており、今後実施館数の拡大を順次図りながら検証を重ね、22年度までには、全児童会館での実施を目指す。 <u>○事業費については計画期間中の新規実施に係る事業費のみ計上する(レベルアップ事業)</u>		＜年度別の事業内容＞	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年度 新規20館(計40館)で週2回実施検証</li> <li>・平成20年度 新規20館(計60館)で週2回実施検証</li> <li>・平成21年度 新規20館(計80館)で週2回実施検証</li> <li>・平成22年度 新規24館(計104館)で週2回実施検証</li> </ul>	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>【実施館数】平成19年9月に実施館を20か所増やし、計40館(各区4館)で週2回夜間利用を実施した。</p> <p>【利用者数】(1) 延べ:32,628人&lt;中学生:12,352人(37.9%)+高校生:20,276人(62.1%)&gt; (2) 1館1回当たり平均:10.3人&lt;中学生:3.9人+高校生6.4人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に伴い、学校を通じてチラシを生徒に配布するとともに、地下鉄駅にポスターを掲示。また、広報さっぽろ、ホームページ(携帯版含む)、広報番組等を活用し、広く周知を図った。</p> <p>【活動内容】スポーツ活動(バスケットボール、ダンス等)での利用が多いが、その他調理、読書、部活動の打ち合わせ、職員との会話(相談)、館の行事の手伝いなど様々な活動が行われた。</p> <p>また、環境問題を考える契機とするための「プレガイアナイト」や中・高校生の発案による「(他館との)自主交流事業」等の行事も実施した。</p> <p>【理解促進への取組】新規実施館について、地域や学校の理解を得るために、町内会、民生児童委員、青少年育成委員等の会議や中学校、高校に出向き、事業の説明を行った。</p> <p>【利用促進への取組】(1) 本事業に愛着をもってもらえるよう、中・高校生から本事業の愛称を募集した。(2) 中・高校生の参画による「中・高校生フェスティバル」を実施した。</p>		<p>【実施館数】より多くの中・高校生が、身近な場で気軽に利用できるよう、平成20年5月に実施館を更に20か所増やし、計60館で週2回夜間利用を実施した。(地域性等を考慮し、各区4館～8館で実施)</p> <p>【利用者数】(1) 延べ:57,394人&lt;中学生:23,122人(40.3%)+高校生:34,272人(59.7%)&gt; (2) 1館1回当たり平均:9.9人&lt;中学生:4.0人+高校生5.9人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に当たり、19年度と同様に、学校を通じてのチラシ配布やポスター掲示、広報さっぽろ、ホームページ(携帯版を含む)等多様な方法で幅広く周知を図った。</p> <p>【活動内容】各種スポーツや読書、職員との会話(相談)などの日常的な活動の他、館行事の手伝いに係わる中・高校生も増えている。</p> <p>また、「中高校生フェスティバル」や小学生対象のお泊り会「みんなで泊まろう!! プチ学校」などの行事の企画・運営に中・高校生のボランティアスタッフが参画した。</p> <p>【理解促進への取組】実施館の拡大に当たり、児童会館の館長を中心に、まちづくりセンターと協議しながら、占用利用団体や学校、町内会、民生委員などの関係機関に対する個別説明を実施した。</p>	
	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<p>【実施館数】平成21年5月に実施館を更に20館増やし、計80館で週2回夜間利用を実施した。(地域性等を考慮し、各区6館～12館で実施)</p> <p>【利用者数】(1) 延べ:76,770人&lt;中学生:30,499人(39.7%)+高校生:46,271人(60.3%)&gt; (2) 1館1回当たり平均:10.0人&lt;中学生:4.0人+高校生6.0人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に当たり、引き続きチラシ、ポスター、広報さっぽろなどによる周知を図る他、中・高校生向けのイベントの開催やラジオ番組などによるPRも行った。</p> <p>【活動内容】各種スポーツや行事などを通じた、日常的な交流活動の他、小学生のための行事などに、児童会館職員の手伝いとして参加する中・高校生も引き続き増加している。</p> <p>また、今後、社会人としての仲間入りをする中・高校生に対し、児童会館の職員が積極的に関わりを持ちながら、将来のことなどについて相談等を行っている児童会館もある。</p> <p>行事については、平成21年度においても、「中高校生フェスティバル」を実施した他、地域のお祭り等にも中・高校生が参加するなどの活動があった。</p> <p>【理解促進への取組】実施館の拡大に伴う、まちづくりセンター等の関係部局や占用利用団体との協議については、児童会館の指定管理者において、館長等が中心となり、個別説明を行うなど理解に努めた。</p>		<p>【実施館数】平成22年5月に実施館を更に23館増やし、計103館で週2回夜間利用を実施した。</p> <p>【利用者数】(1) 延べ:85,503人&lt;中学生:36,218人(42.4%)+高校生:49,285人(57.6%)&gt; (2) 1館1回当たり平均:8.6人&lt;中学生:3.6人+高校生5.0人&gt;</p> <p>【広報】新規実施館の拡大に当たり、引き続きチラシやポスターなどによる周知を図る他、テレビなどの広報番組や中・高校生向けのイベントの開催を通じたPRなどにも取り組んだ。</p> <p>【活動内容】引き続き地域における中・高校生の居場所として、気軽に利用してもらえるよう、ニーズに応じた多様な活動を行うとともに、異年齢児童や地域住民との交流、利用者の主体性をさらに促進できるよう取組を充実させていく。</p> <p>【理解促進への取組】本事業の円滑な実施のためには、地域や学校などの関係機関の協力が不可欠であることから、これまでと同様、新規実施館を中心に、関係機関への個別説明を行うなど、理解促進を図る取組の継続に努めた。</p>	

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-3			事業名	児童会館における中・高校生の利用促進																			
達成目標の状況																								
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)																		
夜間利用実施館数	20館	40館	60館	80館	103館	104館																		
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)																								
<p>■市民との連携、市民参加 夜間利用をきっかけとして、中・高校生が小学生等の異年齢児童の行事にスタッフとして参加するなど、今後社会に出る上での、貴重な体験活動の場を提供することができた。また、町内のお祭りにボランティアスタッフとして参加するなど、地域住民との交流を行うことで、まちづくりの推進に関わりを持たせることができた。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 夜間利用の新規実施館について、町内会等の会議や学校において個別に事業説明を行い、理解促進に努めたところ、地域住民や学校の児童会館事業全般に対する関心が深まり、館の行事等への参加や見守りなど協力が増えてきた。</p>																								
評価(成果)			課題																					
<p>夜間利用実施館については、ニーズの高さや地域バランスなどを勘案しながら、年20館程度拡大してきたところである。1館あたりの利用人数はほぼ横ばいとなっているが、利用延べ人数は着実に増加しており、開始時期が早い館ほど利用者は多く、各地域(中学校区)における中・高校生の放課後の居場所に対するニーズに着実にこたえてきた事業実施であるといえる。</p> <p>【利用実績】(利用人数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>延べ人数</th> <th>1館1回当たり平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>17,735人</td> <td>9.2人</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>32,628人</td> <td>10.3人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>57,394人</td> <td>9.9人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>76,770人</td> <td>10.0人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>85,503人</td> <td>8.6人</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、児童会館の職員が、積極的に中・高校生と関わりを持ちながら、相談(進路や友人関係など)に応じるケースも見られ、地域における気軽な相談場所としての機能も果たしている。</p> <p>さらに、多くの児童会館では、夜間利用をきっかけとして、中・高校生と児童会館とのつながりが深まったことにより、異年齢交流の一層の促進、ボランティア活動の広がり、地域住民と児童会館の関わり強化など、中・高校生自身の成長につながるような効果が現れている。</p>			年度	延べ人数	1館1回当たり平均	H18	17,735人	9.2人	H19	32,628人	10.3人	H20	57,394人	9.9人	H21	76,770人	10.0人	H22	85,503人	8.6人	<p>平成22年度においても実施館を拡大し、現在、103館で夜間利用が実施されているが、中島児童会館については繁華街であるすすきのに隣接しているという地域の実情や、市内でも有数の大型公園である中島公園内に位置しているという立地条件により、中・高校生が夜間に活動を行う本事業には利用者の安全確保等解決すべき課題も多いことから、実施するには時間を要する。</p> <p>当面は、中島児童会館の地域性を考慮し、これまでの事業内容とは異なる手法で、中・高校生の利用促進を図ることについて、札幌市と児童会館の指定管理者が連携するとともに、必要に応じて協議を行いながら検討を進める必要がある。</p> <p>また、利用人数について、全体としては、増加傾向にあるが、館毎の格差が大きい。このため、中・高校生へのニーズ調査など、利用者に対するアンケート調査を実施し、各地域でのニーズ等を細かく分析するとともに、館毎の特色を持たせた活動や行事を企画するなど、児童会館の指定管理者に対しより一層の工夫を求めていく。</p>			
年度	延べ人数	1館1回当たり平均																						
H18	17,735人	9.2人																						
H19	32,628人	10.3人																						
H20	57,394人	9.9人																						
H21	76,770人	10.0人																						
H22	85,503人	8.6人																						
今後の事業の予定・方向																								
<p>平成22年度に夜間利用の全館実施を目指したところであるが、現在、中島児童会館においては実施されていないため、当面は、地域の実情に応じた手法で、中・高校生の利用促進を検討する。</p> <p>また、児童会館が、「中・高校生の地域における居場所のひとつ」として十分な役割を果たしていけるよう、実施状況や事業内容を検証し、利用しやすい環境整備、地域との連携や中・高校生の主体性に配慮した取組の充実などを図ることが必要である。</p>																								

## 平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		1-2-3			事業名	児童会館における中・高校生の利用促進				
事業費の推移										
項目				19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費			12,500	37,450	55,650	77,400	183,000		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0			
	一般財源			12,500	37,450	55,650	77,400	183,000		
予算	事業費			12,500	34,745	51,490	71,027	169,762		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0			
	一般財源			12,500	34,745	51,490	71,027	169,762		
実績	事業費			11,629	33,300	50,111	68,293	163,333		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0			
	一般財源			11,629	33,300	50,111	68,293	163,333		
事業費の進捗率				(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					89.3%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										